赤ちょうちん

（643）

山城屋酒場

住吉駅 徒歩15分

【江東・書記・内藤昇記】江東支部の目の前にある大衆居酒屋「山城屋酒場」は明治30年創業で、昭和28年に今の形になりました。看板も当時のまま味わいのある物です。

暖簾をくぐるとそこはドラマのセットのようなレトロ感。カウンターとテーブル、座敷があり、常ににぎわっていて満席で入れない事も多々あります。

壁には一面、短冊に書かれたメニューが貼ってあり、定番のメニューと日替わりおすすめ品も。そこから選ぶのも楽しみの一つ。

おつまみはどれも美味しく、お刺身は絶品。オススメは「今日のお酒」。日本全国の地酒を日替わりで味わえます。一番のご馳走は看板女将の晴さんの笑顔。「いらっしゃ～い」の一言で一日の疲れが癒されます。支部で会議や群会議の後は予約した席に組合員がどんどん増えていきます。

テレビや雑誌の取材も多く、店内には有名人のサイン色紙もたくさん。気軽に入れる雰囲気のお店、是非立ち寄ってください。

看板女将の晴さん

刺身も女将も絶品

創業120年の老舗居酒屋

〈メニュー〉

生ビール（中）	450円
日本酒（剣菱）	380円
ホッピーセット	390円
ウーロン杯	350円
刺身3種盛	730円
はんぺん焼き	330円
鳥から揚	490円
鳥軟骨唐揚げ	390円
焼きめし	520円
お茶漬け	410円
目玉焼き	280円
イカ納豆	390円
えいひれ	380円
長いもわさび	330円
ポテトサラダ	280円
キムチ	330円
しじみ汁	280円

営業時間　16時～23時
定休日　日曜
江東区南砂1－6－8（駐車場無し）
☎3644－3098

ナイショ話

民主化

戦後、福生の青年たちが日本や郷土をどう再建するのか、自由主義、民主主義とは何なのか話し合い、青年団を再建しようということになり、戦中、青年団のリーダーだった橋本孝蔵が昭和20年11月、「福生青年団」を発足させる。

橋本は昭和16年に戦争協力組織として改組させられた「青少年団」を原点に戻した。そして蔵原惟人らの「新日本文学会」と繋がり、地域の民主化運動にも取り組んでいく。

忘れえぬこと

下校中突然の爆撃

蛸つぼ防空壕で命拾い

塗装　岡田豊志

終戦間近の昭和20年。旧制中学1年の私は、午前中は軍事教練、午後は国へ勤労奉仕の松根油の原料である松の根掘りと通常の授業が混同した日程が続いた。

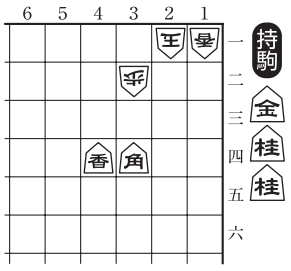
8月5日朝礼で「上級4年生は当時東洋一の軍需工場である豊川海軍工廠（こうしょう）に動員されているが、下級生の諸君は肉体労働が続いたので本日は自宅待機で帰宅せよ」の指示。私も喜び、自転車で帰宅することに。15分ほど走った頃、突然空襲警報のサイレンが鳴り響き、通行人の多くが「おかしい」「いつも警戒警報が出てからなのに」、と右往左往していた。早く家に急げと、気だけ焦った。

しばらくして三河湾上空から米軍B29と戦闘機の編隊が小鳥の群れのように見えた。少年の私にも工廠に向かってきたと直感し、通い慣れた県道筋の畑に多く掘られた蛸つぼ防空壕と呼ばれる青天井の丸形壕を探し当て、自転車を乗り捨て走った。見知らぬ老人が手招きしてくれ、転がり込んだ。すぐヒュルヒュルヒュルーと竹笛のような音がしたら、ドカーンドスーンと体が浮く感じの爆発音で頭から畑の土を被った。でも助かったと老人と抱き合った。20万㎡の工廠も30分程度の爆撃で敵機が去って静かになり、顔を出して見て驚いた。建物は跡形もなく、遺体がゴロゴロ転がり、体験した人のみ知る表現できない異臭。

今、豊川稲荷西隣に慰霊碑が建立され2千余ほどの慰霊が眠っている。帰郷（豊川）するたび参拝し、平和のありがたさを痛感する。（町田）

詰将棋

持駒　金　桂　桂

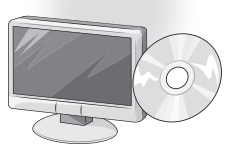


チョット一服（950）

NHKで奇跡のレッスン「バレーボール編」が再放送されていた。ブラジルから来たアントニオ・マルコス・レルバッシ（愛称・マルキーニョス）さんが西東京市のひばりが丘中学の男子バレー部のコーチを務める。

マルキーニョスさんは、強豪サレジオ中学との練習試合で、「勝とうと思うな、それぞれがベストを尽くせ、勝利は結果でしかない」と指導する。サレジオから目標であった10点以上を奪って自信をつけるひばりが丘のメンバーたち。東京五輪で何色でもいいからメダルが欲しいというアスリートとはちがってとてもさわやかだ。

DVDブルーレイ



戦争と平和

監督　キング・ヴィダー

オードリーの存在感を再認識

【西多摩・瓦・高野初雄通信員】多くの命が犠牲になった太平洋戦争で敗戦。焼け野原だった東京が復興し、映画が楽しみだった時代。どれだけの人がスクリーンの彼女に魅了されたことでしょうか。

そんなオードリー・ヘプバーン。アカデミー賞・ゴールデングローブ賞（共に主演女優賞）を受賞した『ローマの休日』をはじめ『ティファニーで朝食を』など多くの話題作に出演しています。

1956年公開の『戦争と平和』はロシアの人々とナポレオンとの戦争を描いた文豪トルストイの長編小説が原作で、自分探しを続ける若者達の成長物語です。

天真らんまんな少女ナターシャ（オードリー・ヘプバーン）に、お人よしで不器用なピエール（ヘンリー・フォンダ）と、親友で軍人のアンドレ（メル・ファラー）が恋をします。そして3人は、ナポレオンとの戦争に巻き込まれていきます。それぞれに成長を遂げ、生と死、そして愛の意味を知ることになるのですが、原作を知らないで映画を見ると、何を表現しているのかわからないエピソードを延々と見せられるような感じかもしれません。

ただ、イタリアのセットで再現されたモスクワの宮殿は実物より本物らしいと言われ、合戦シーンでは、1万5千人のイタリア軍の兵士に、当時を忠実に再現した軍服を着せ、雪あらしのシーンの大量の人工雪も圧巻です。

オードリーにとっては初のカラー・ワイドスクリーン作品への出演で、彼女がスクリーンの中に出てくるだけでよかった存在だと分からせてくれます。